



創立152年

わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和7年 6月号
児童数377名 文責 澤村幸夫



何をするかではなく

どのようにするか

校庭の「モチノキ」の枝葉がぐんぐん伸びてきました。中庭に並べた植木鉢には、2年生のミニトマトが育っています。子どもたちは、毎朝水をあげたり観察したりして、植物の成長を見つめています。種から芽が出て、土と太陽のエネルギーをもらい、自分たちの背丈より高くなるまで成長する姿から、また、花を咲かせ、実を付けて、最後に種にもどる姿から、生命の不思議と科学的思考をふくらませていきます。



最近よく耳にする言葉に「非認知能力」というものがあります。「認知能力」は、テストの点数や通知表の成績など数値化できる学力や技能のことです。それに対して「非認知能力」はテストでは測れない力で、あいさつや礼儀、リーダーシップ、協調性、自己管理能力、課題解決力などの心の動きに由来する能力のことを言います。実は、「認知能力」だけ向上しても「非認知能力」は向上しないと言われています。逆に「非認知能力」を向上させることで「認知能力」は高めることができると言われています。例えば、算数の足し算や引き算ができるようになるためには（認知能力）、あきらめないで粘り強く問題を解く力（非認知能力）が必要です。単なる計算ミスなのか、解き方が間違っていたのか、どこでつまづいてしまったのかを自分で気づけるようになることが大切です。そして、もっと難しい問題にもチャレンジしようとする意欲が学力向上を後押ししてくれます。つまり、「非認知能力」がベースとしてあることが、子どもたちが勉強に取り組む姿勢や学力の向上につながるのです。



友だちとの関わり

では、「非認知能力」を育てるには、私たち大人はどうすればよいのでしょうか。ずばり、「非認知能力」を伸ばすために必要なのは、「何をするか」ではなく、「どのようにするか」です。子どもたちがいろいろな遊びや勉強、活動に興味を持ち、自分で何かを発見して喜びを味わう経験や、「自分でやりたい!」と思うような環境を用意することが大切になってきます。つまり「子どもの知的好奇心に火をつける」ことです。また、「非認知能力」が育つためには、友だちとの関わりも不可欠です。友だちと関わり合っていくなかで、自分の気持ちも相手の気持ちも尊重できるようになっていきます。失敗しながら相手の気持ちを理解するところまで成長するのです。

今まで意識していた「認知能力」と、これから新たに意識していく「非認知能力」。これらは、どちらも互いに影響し合いながら高まっていく力です。和邇小学校では、肌で感じる実体験を重視しながら、「非認知能力」と「認知能力」を一体的に育む活動を、これからも推し進めていきたいと考えています。



学校のグッピー(ドイツイエロータキード)
本文との関連はありません。

1・2年生 和邇公園へ

1・2年生は、たくさんの春を見つけ、和邇のまわりの様子から様々な発見をします。2年生は、1年生との活動でお兄さん、お姉さん役を務めました。良い天候に恵まれて、新緑の和邇公園を満喫しました。



3年生 地域探検 東西南北

3年生では、「和邇のステキを見つけよう」というテーマのもと、和邇地域を東西南北の4つの方面に分け、各方面を徒歩で探検し、気づいたことや特徴をまとめています。東コースはお弁当をもって行き、浜方面の美しい景色を堪能しました。



4年生 校外学習

4年生は、湖西浄化センターと北部クリーンセンターに校外学習に出かけました。浄化センターでは下水処理について本物を見ながら学びました。クリーンセンターでは、ゴミ処理とリサイクルについて学びました。

4年 校外学習

紙面配布のみ表示



期間限定 6/1~6/30

5年生 和邇川探検

5年生は、和邇川について調べました。下流と中流に分けて、2日間、生き物調べをしました。実際に冷たい川に入り、魚を捕ったり、水質を調べたりしながら、下流と中流の違いについてまとめていきます。現地での実体験を伴う学習を大切にしています。ライフジャケットの着用を徹底しています。



6年生 租税教室

6年生で「租税教室」を行いました。私たちの身近なところで税金がどのように使われているかなど、税にまつわる話を聞きました。模擬紙幣の1億円を見せてもらい、税について考える良い機会となりました。



1年生を迎える会

5月9日(金)に「1年生を迎える会」が開催されました。児童会が主体的に企画し、入学した1年生を温かく迎え、学校生活を少しでも楽しんでもらえるよう、委員会の紹介や和邇小クイズなどを行いました。全校が一堂に会した楽しいひとときでした。動画にまとめましたので、ご覧ください。

1年生を迎える会

紙面配布のみ表示



期間限定 6/1~6/30



お知らせ (保護者や地域の皆様へ)

学校では、子どもたちの自己肯定感を高めるために、「校外活動で表彰などを受けた場合に、給食の時間に全校に紹介する伝達表彰の取組」を行っています。スポ少やクラブチーム、習い事、文化活動、資格などで表彰などを受けた児童がいましたら、団体でも個人でも、また賞の大小は問いませんので、学校までお知らせください。(賞状や証書、トロフィーなどを持ってきてください。)自薦・他薦は問いません。期間は、今年度(令和7年4月以降令和8年3月まで)です。和邇小学校の子どもたちの学校外での取組や頑張りを、広く全校児童にお知らせすることで、互いに認め合い、支え合える関係をつくり、また、励みにつながればと思います。どうぞよろしく願いいたします。



第3弾 「自分で考える習慣」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。これまで、「自尊感情を高めるために」と「子どものウェルビーイング」「未来への扉」というシリーズものを掲載してきましたが、今年度は「未来の宝物」と名づけました。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思ひます。

第3弾は「自分で考える習慣」です。もちろん、「子どもが自分で考える習慣をもつこと」を指します。「勉強が苦手なんです」「何度言ってもやる気が出なくて」、小学生の多くの保護者から聞かれる悩みです。私はこれまでの38年間、教員生活を送る中で、多くの保護者の皆様から「子育ての難しさ」について学ばせていただきました。その経験から見てきた「子どもが勉強につまずきやすい環境」について共に考えていきたいと思ひます。

1つ目は、「勉強しなさい」が口ぐせになっている環境です。「早く勉強しなさい」「宿題はやったの?」こうした声かけは、どの家庭でも日常的に行われがちですが、「勉強しなさい」と繰り返すだけでは、子どものやる気にはつながりません。「なぜ勉強するのか」「何が面白いのか」がわからないままでは、勉強嫌いになるもの無理はありません。大人の関わりとしては「今日は何を学んだの?」「役立ちそうだね!」「不思議だね」など、勉強に前向きなイメージを持たせる声かけに変えていくことです。和邇小学校では、そのきっかけづくりとして学校ホームページの「和邇小日記」に、その日の学習の様子を写真つきで掲載しています。親子の話題にしてもらえるとありがたいです。



学校のエンゼルフィッシュ
本文との関連はありません

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校日より「わにっこり」のバックナンバーは、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

2つ目は、わからないことを大人がすぐに教えてしまう環境です。子どもが「わからない」と言うと、すぐに答えを教えちゃいがちですが、これも小学生が勉強につまずく要因になります。すぐに正解を与えられると、子どもは「考えなくても誰かが教えてくれる」と思ってしまい、学習意欲や問題解決力が育ちません。こんな時は「教える」より「待つ」です。「どこがわからなかった?」「どう考えた?」「どうしたらいいと思う?」と問いかけることで、自分で考える習慣が身に付いていきます。

3つ目は、生活リズムが不安定な環境です。「夜更かし気味」「朝ごはんを食べない」「ギリギリまで寝ている」こういった生活習慣の乱れは、学力にも大きな影響を与えます。学びには、脳の働きや集中力、持続力が不可欠です。睡眠や栄養が足りないと、そもそも勉強に取り組むコンディションが整いません。生活リズムを安定させるには、できることから実行に移すと良いと思ひます。寝る時間を決める、朝食にたんぱく質を取り入れる、登校前に「今日はどんな1日にする?」と話す、こうした小さな生活習慣の見直しは、学力の土台になります。

「どうしたら子どもが勉強するようになるの?」という悩みの多くは、学習内容そのものではなく、大人の関わり方や環境にその原因がありそうです。「どれだけ言っても勉強しません」「子どもが勉強につまずくのはやる気のせい」と決めつける前に、大人の声かけ、学習習慣、生活リズムを少し見直してはいかがでしょうか。子どもたちは、大人のちょっとした気づきで、大きく変わる力を持っています。子どもの可能性は無限大です。